

ホラー&ミステリー

暑い夏に、ソクソクさせる
物語をどうぞ。
次ページにも続きます。

あめだま

せいあ がた
青蛙モノノケ語り

田辺青蛙／著
青土社(2013年) 本体価格1600円+税

“顔が溶け始めてしまった” —という
一文から始まるホラー短編集。

イマジネーションを働かせて、
頭の中に様々なモノノケを
生み出してしまえる…
そんな物語が満載。

……本を手にとったアナタ、
ホラ、言った通りでしょう？



八雲 怪談傑作集

耳なし芳一・雪女

新装版

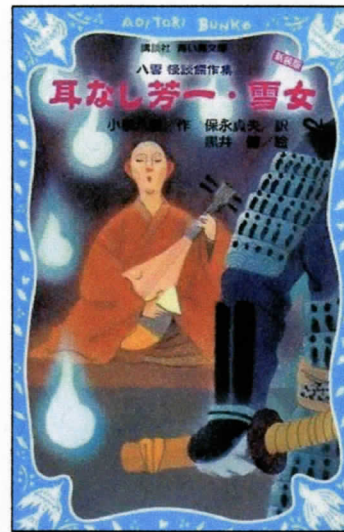
小泉八雲／作 保永貞夫／訳 黒井健／絵
講談社青い鳥文庫(2008年) 本体価格570円+税

日本に昔から伝わるこわい話や民話を、
外国人でのちに日本に帰化した作者が
まとめた一冊。表題作を含めた

20の話が収録されています。

悲しいエピソードや不思議な話等あり、
ホラーが苦手な人にもおすすめですよ。
どこか懐かしく、読んでいくうちに
日本の心が伝わってきます。

※1992年刊行の本は、武蔵野台のみ所蔵



午後からはワニ日和

似鳥鶏／著
文春文庫(2012年) 本体価格562円+税

動物園の飼育員の仕事ってどんなもの？
…という話だけだと思ったら
ちよいと間違い。

なんと、「イリエワニ1頭を頂戴しました。
怪盗ソロモン」という紙を残して
1m50cmもある巨大なワニが
盗まれたのである。

いったいどうやって盗んだのか。
その目的は…。



コモリと子守り

歌野晶午／著
光文社(2012年) 本体価格1700円+税

引きこもりの馬場由宇は、
虐待されている疑いがある子どもを
助け出そうと勝手に連れ出してしまう。

困った由宇は、元同級生・舞田ひとみに
助けを求める。
ところが事件は大きくなるばかり…。

スピード感あふれる、
ひとみの推理が光ります。

